

背景 & 課題

▼函館を、全国・世界に発信していく「実践型の海洋教育のモデル拠点」とするプロジェクト

三方を海に囲まれながら海に親しむ機会の少ない函館で、子どもたちに海洋教育を提供。
2019年に始めた函館朝市ミニ水族館の運営、2020年からの子ども海藻アカデミー企画運営を継続しつつ、
2021年は新たな取り組みを行い、量的にも質的にもパワーアップした。

2021年度実施内容のまとめ

実施①



年間常設の「函館朝市ミニ水族館」に加え、
今夏、函館市の子ども学習施設で海の企画展

実施②



従来の水族館講座、子ども海藻アカデミーに
加えて、1泊2日の海洋教育ツアー、
新講座3種、関係者スキルアップ講座を実施。

実施③



未利用海藻「北海道産青海苔」調査を実施。
飲食店連携（東京・函館）、学校給食10校

量的成果（事業の拡がり）

- ① 函館市の子ども学習施設で「海の未来展」。
開館以来、企画展で最も多い集客数5470人を記録。
- ② 講座を16回開催、のべ参加400人超（当初計画の230人から大幅増）。
飲食店連携8店（東京・函館）、函館市内で学校給食連携10校970名。
函館市、北海道、奥尻町、松前町、国交省と連携。道内50漁協に調査。
- ③ メディア露出20回以上。子ども海藻アカデミーでの学び共有と、青海苔調査
報告のタブロイド10万部を発行し、函館近郊の全児童に配布＆市内配布。

質的成果（次なる展開への芽）

- ① 海洋教育の専門家による講義や、講座の企画運営に関する研修を受け、
関係者の知識・意欲が向上。
- ② 参加児童の中から、当会での体験・学びを元に32ページものレポートを作成
するスーパーキッズが現れた。
- ③ 青海苔が有名料理人から高評価。「分とく山」は催事・料理教室で追加使用、
「レストランアクアバツア」は公式YouTubeで紹介し2万回再生

2021年度 課題点

- ① より、リアルな自然体験をきっかけとした海洋教育へ
- ② 子どもたちの興味関心を切り口にした企画運営
- ③ 次のステップを見据えたプログラム、コンテンツ開発

2022年度 改善点

- ① 釣り＋総合的な海の学びの海洋教育プログラム開発
- ② 「映像×海洋教育」のプログラム、コンテンツ開発
- ③ 新たな連携先との協働

参考資料



水槽で泳ぐホッケ

函館朝市ミニ水族館。今年度テーマは「海と食」。
水槽をいかした子ども向け講座、
朝市の飲食店とのコラボ企画も実施。



津軽海峡に面した海岸にて、
「海藻の森探検」・「磯の生物観察会」



【3つの新講座を企画開催】
「海のプランクトン観察」「磯の生物観察」
「昆布のタッチプール&子ども海藻大使の解説」



北海道、奥尻島、国土交通省などと連携し、
1泊2日「奥尻島ホソメコンブ調査隊」を実施。
児童発表には、奥尻町長・北海道局長が参加。



北海道産天然青海苔メニュー開発・飲食店連携
(写真は「分とく山」野崎総料理長)



未利用海藻「北海道産天然青のり」学校給食
を通じ、海の学び提供（10校、970人対象）

